【教員の皆様へ】

ふくしまの「家庭学習スタンダード」Q&A

福島県教育委員会

県教育委員会では、今後の家庭学習の目指すべき方向性と家庭・地域の関わりや学校の取組等を示した「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」を、平成２９年１２月に発行しました。

その家庭学習スタンダードの内容をより理解していただくため、「ふくしまの『家庭学習スタンダード』Ｑ＆Ａ」を作成しましたので、ぜひ御活用ください。

なお、県教育委員会では、家庭学習を充実させる効果的な事例を提供したり、教員や保護者を対象にした研修会等において助言したりするなど、家庭学習を充実させる取組を支援していきます。

１　全体に関わる内容

Ｑ１　「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」とは何ですか。

Ａ１　変化の激しいこれからの時代を生きる子どもたちの家庭学習を充実させるために、家庭学習を通して育みたい力を地域・家庭と学校が共有し、連携・協力して、お互いの役割を果たしていくことができるよう作成したリーフレットです。「家庭・地域の関わり」や「学校の取組」を例示するとともに、家庭でも家庭学習を振り返られるように、チェックリストも盛り込んでいます。

Ｑ２　なぜ、家庭学習に自己マネジメント力が大切なのですか。

Ａ２　子どもたちの家庭学習には、次のような特殊性が指摘されています。

- ○　教師というペースメーカーがいない状況で、家庭では子ども自らが学習を進めなければならない。
- ○　テレビやゲーム、マンガやスマートフォンなど、子どもたちの興味・関心をひくものが身近にある環境の中で、主体的で自律的に学ぶことが求められる。
- ○　家庭学習の質と量が家庭の教育によって影響を受けやすい状況の中、自ら進んで学習する必要がある。
- ○　自分にとって効果的・効率的な時間帯や、学びやすい方法、苦手な教科や得意な分野など、自己の特性に応じた家庭学習の方法を確立する必要がある。
- ○　宿題や学校の予習・復習だけでなく、読書や調べ学習、あるいは個人の参考書や問題集を用いた学習をするなど、自主学習により多く取り組むことが学力向上に結び付いている。

このような特殊性から、必要になるのが「R-PDCA サイクルを通して、自分で学習や生活を改善する力」、つまり自己マネジメント力です。この自己マネジメント力は、宿題やテストに向けた学習など、ややもすると受け身で他律的な学習になりやすい家庭学習を、主体的で自律的な学習にかえていく原動力となります。また、この R-PDCA サイクルを繰り返すことは、少しずつ自分をマネジメントしていく力を育てることになり、自分の人生を豊かに創造していくことにもつながっていきます。

家庭学習の場を、克己心を育む絶好の場であるとも捉え、生涯にわたって宝となる自己マネジメント力を、未来を担う子どもたちに育成していくことが大切です。

Ｑ３　自己マネジメント力の指導は、いつ頃から始めるとよいのですか。

Ａ３　自己マネジメント力の育成については、自己を客観的にみることができるようになる小学校中学年頃から始め、高学年、中学校と段階的に指導していくのがよいと考えられます。

小学校低学年では、家庭・地域と連携しながら、望ましい学習態度の育成に努めます。

小学校中学年頃から、宿題だけでなく自主学習への取組を推奨し、自己マネジメント力の指導を始めます。この時期の子どもたちは、まだ計画性や自分を振り返る力が十分に育っていませんので、家庭・地域の協力を得ながら進めることになります。高学年や中学校でも指導を続け、じっくりとその力を伸ばしていくことが大切です。

各中学校区内において、小学校間や小・中学校間の連携を図り、共通理解・共通実践に努めることで、より大きな効果が期待できます。

Ｑ４　家庭学習を通して育む力は、自己マネジメント力だけですか。

Ａ４　平成２９年３月に学習指導要領が公示されました。「第１章　総則　第１　２（１）」には、「家庭との連携を図りながら，児童（生徒）の学習習慣が確立するよう配慮すること。」とあります。また、「第１章　総則　第１　３」には、「児童（生徒）に生きる力を育むことを目指すに当たっては，～（略）～どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら，教育活動の充実を図るものとする。その際，児童（生徒）の発達の段階や特性等を踏まえつつ，次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする。

(1) 知識及び技能が習得されるようにすること。

(2) 思考力，判断力，表現力等を育成すること。

(3) 学びに向かう力，人間性等を涵養すること。」

と述べられています。

これらのことから、家庭学習の指導も教育活動の一環として捉え、家庭学習を通して育成する力は、自己マネジメント力だけにとどまらず、(1)～(3)が偏りなく実現できることを目指していくことになります。

2　「家庭・地域の関わり」に関する内容

Ｑ５　「家庭・地域の関わり」とありますが、地域の関わりとはどのようなことですか。

Ａ５　小学校の場合、放課後に「児童クラブ」や「放課後子ども教室」等に参加し、そこで学習をする子どもが多く見られます。また、長期休業中に地域が主催する学習会等に参加して学習するという場合もあります。そのような場においては、地域の方々が子どもたちの学習に関わることになるため、「家庭・地域の関わり」としました。

Ｑ６　「家庭・地域の関わり」の部分には、「～しなさい」のような直接的な働きかけが少ないように思いますが、それはなぜですか。

Ａ６　自己マネジメント力は、直接教えて身に付くものではなく、R-PDCA サイクルを繰り返す中で、子どもが自らの課題に気付き、自分で学習や生活を見直し改善していく中で育まれていきます。ですから、「自覚を促す」、「気付かせる」といった間接的な働きかけがとても大切になります。

Ｑ７　心の支えとして、「ちょっとした変化に気付いて、認めてあげることが大切ね……」とありますが、「褒める」ではなく「認める」になっているのはなぜですか。

Ａ７　「『褒めて（自信を持たせて）育てる』という発想よりも、『認められて（自信を持って）育つ』という発想の方が、子どもの自信が持続しやすい。」

これは、生徒指導リーフ「『自尊感情』？　それとも、『自己有用感』？ Leaf.18」（国立教育政策研究所発行）にある言葉です。

また、「褒めること」と「認めること」の違いについて、次のように述べられています。

> 大人が子供を「褒める」ときは、一般には大人の基準や水準で「褒める」ことが多いように思われます。大人の側（がわ）の基準で一定の水準に達しない場合には「頑張りなさい」と叱咤激励することはあっても、褒めることは希（まれ）でしょう。
>
> それに対して、子供が「認めてもらいたい」ときというのは、一般に子供の基準や水準で「褒められたい」のではないでしょうか。子供なりのこだわりで努力したり工夫したりしたことを「認められたい」のです。だから、大人の考えた基準に達していなくとも「褒めてほしい」と考えたり、大人の考えた水準に到達して「褒められた」場合でさえ、大人の基準とは異なる子供の基準でも「褒めてほしい」と考えたりするわけです。

「褒める」は、結果を認める方法の一つで、ある程度の成果が出ない子どもたちを褒めることは難しいものです。それに対し、「認める」は、結果だけでなく過程を見取ることで可能になり、興味や関心、意欲を引き出す動機付けになります。家庭・地域の方が「認める」機会を増やすために、「ちょっとした変化に気付く」ことがとても大切です。

家庭学習の指導においては、子どもたちに目標や工夫する点、努力する点などを考えさせておき、その基準に沿ってどこまで達成できたのかを評価することが重要になります。子ども一人一人の家庭学習をきちんと見取り、その状況に応じて、認めたり、褒めたりすることがポイントになります。

Ｑ８　「読書は、集中力を高める効果もある」とありますが、このほかに、読書にはどのような効果がありますか。

Ａ８　読書には、「集中力を高める効果」以外にも、想像力を育む、語彙を増やす、知的好奇心を伸ばす、感性を豊かにするなど、様々な効果が期待できます。

特に語彙については、小学校低学年の学力差の大きな背景にその量と質の違いがあるとの指摘がなされています。小学校低学年で表れた学力差が、その後の学力差の拡大に大きく影響していることを踏まえると、語彙の量を増やし、質を高めるためにも読書の充実を図る必要があります。

３　「学校の取組」に関する内容

（１）　自己マネジメント力の育成に関する内容

Ｑ９　「一定期間の実施状況を～」とありますが、一定期間とは、どのくらいの期間ですか。

Ａ９　「学校の取組」は、学期に１回程度の実施を想定し、その中で「家庭学習を見直そう週間（例）」などとして、２週間程度、R-PDCA サイクルを意識させた取組を設定・実施することを想定しています。

ただし、R-PDCA サイクルは日々の家庭学習においても働き、自分のよさや改善点を自覚した上で、自分に合った計画を立て、実行し、その取組を自ら振り返り、改善していく子どもの姿を期待しています。

なお、日々の家庭学習における R-PDCA サイクルでは、確かめ（Check）ながら、自分の方法等を見直し（Action）たり、自分の新たな課題をとらえ（Research）たりするなど、順序通りに循環しないこともあると考えられます。大切なことは、自分を知ることであり、自分にとって最良な取組や方法を見つけていくことであると考えると、無理にこのサイクルに当てはめる必要はありません。

Ｑ10　「学習や生活の振り返りができるチェックシートなどを活用し、自己診断できるようにする。」とありますが、具体的にどのような内容をチェックするのですか。

Ａ10　別紙「家庭での学習・生活チェックシート」などを用い、学級活動の時間などを使って、自分の学習や生活の在り方を自己診断させます。評価項目には、「生活習慣」「学習時間」「学習内容」「学習方法」などの観点から、自分を多面的・客観的に捉えられる項目を設定し、教師の適切な指導・支援により、自己の改善点や課題に気付かせていくことが大切です。

※　「別紙『家庭での学習・生活チェックシート』（Excel データ）」は、義務教育課のホームページに掲載してあります。自己評価欄に「○」を入力すると、自動的にレーダーチャートに反映されますので、必要に応じて活用してください。

ただし、評価項目の内容は変更できますが、評価項目数（計 25 個）は変更できません。

（別紙）

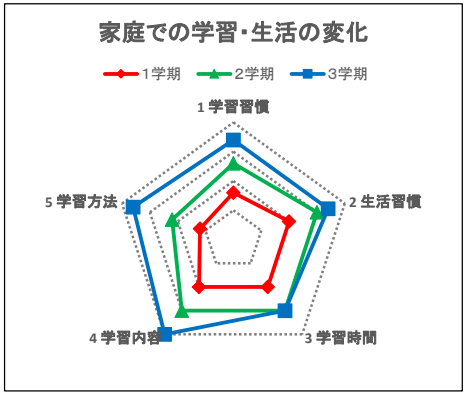
家庭での学習・生活チェックシート

学年		組		番号		氏名	

このシートは、自分の家庭学習をよりよくするために、家庭での学習や生活の様子をふり返るものです。それぞれの項目の4～1の数字のあてはまるところに、一つずつ〇をつけましょう。学校の成績とは関係ありませんから、ありのままを答えましょう。
（4：とてもあてはまる　3：少しあてはまる　2：あまりあてはまらない　1：まったくあてはまらない）

		評価項目（例）	学期	4	3	2	1	気づいたこと
1 学習習慣	①	家の人に言われなくても、自分から進んで家庭学習をしている。	1				○	
			2			○		
			3		○			
	②	テレビやゲーム、スマホなどの誘惑に負けないで学習している。	1			○		
			2		○			
			3	○				
	③	正しい姿勢で机に向かっている。	1				○	
			2			○		
			3		○			
	④	宿題を全部やりとげ、提出日に遅れずに出している。	1			○		
			2		○			
			3	○				
	⑤	宿題がなくても、毎日学習している。	1			○		
			2		○			
			3		○			
	平均値	1学期〔 1.6 〕	2学期〔 2.6 〕					3学期〔 3.4 〕
2 生活習慣	①	毎日、早寝早起きをし、睡眠時間をしっかりととっている。	1			○		
			2		○			
			3		○			
	②	毎日、ほぼ同じ時間に、朝ご飯と晩ご飯を食べている。	1			○		
			2		○			
			3	○				
	③	一日にテレビを見る時間や、ゲームやスマホをする時間を決めている。	1			○		
			2		○			
			3		○			
	④	やるべきこと（部活、習い事、家庭学習、手伝い、入浴など）と、やりたいこと（友人との交遊、趣味・娯楽など）のバランスをとって、生活している。	1			○		
			2		○			
			3		○			
	⑤	うがいや手洗い、適度な運動などを行い、健康管理に努めている。	1			○		
			2		○			
			3	○				
	平均値	1学期〔 2.0 〕	2学期〔 3.0 〕					3学期〔 3.4 〕
3 学習時間	①	決まった時刻に学習を始めている。	1				○	
			2		○			
			3		○			
	②	平日（月～金）の学習時間をおおよそ決めている。	1			○		
			2		○			
			3		○			
	③	土日や祝日など学校が休みの日の学習時間をおおよそ決めている。	1			○		
			2		○			
			3		○			
	④	決めた学習時間の間は、集中して学習している。	1			○		
			2		○			
			3		○			
	⑤	学習内容によって、時間配分を工夫している。	1		○			
			2		○			
			3		○			
	平均値	1学期〔 2.0 〕	2学期〔 3.0 〕					3学期〔 3.0 〕

		評価項目（例）	学期	4	3	2	1	気づいたこと
4 学習内容	①	苦手な教科も学習している。	1			○		
			2			○		
			3	○				
	②	難しい問題や課題にも、がんばって取り組んでいる。	1			○		
			2		○			
			3	○				
	③	授業の予習や復習をしたり、テストの見直しをしたりしている。	1			○		
			2		○			
			3	○				
	④	「調べる」「まとめる」「練習する」など、多様な学習方法の中から自分の課題に合った方法を選んで、取り組んでいる。	1			○		
			2	○				
			3	○				
	⑤	いろいろな種類の本を読むようにしている。	1			○		
			2		○			
			3	○				
	平均値	1学期〔 2.0 〕	2学期〔 3.0 〕					3学期〔 4.0 〕
5 学習方法	①	自主学習に、積極的に取り組んでいる。	1				○	
			2			○		
			3		○			
	②	テストや定期考査の前には、計画を立てて学習に取り組んでいる。	1				○	
			2			○		
			3	○				
	③	ページ数や問題の数、時間、点数など、やりとげる目標を決めて学習している。	1				○	
			2			○		
			3		○			
	④	見直しや答え合わせ、間違い直しなどをし、学習の振り返りをしている。	1			○		
			2		○			
			3	○				
	⑤	分からないことはそのままにせず、調べたり聞いたりしている。	1				○	
			2			○		
			3	○				
	平均値	1学期〔 1.2 〕	2学期〔 2.2 〕					3学期〔 3.6 〕



（２）　家庭学習の充実に関する内容

Q11　「家庭学習の手引き」には、どのような内容を盛り込めばよいのですか。

A11　学校や各中学校区の実態に応じて､次のような内容を盛り込んでいくことが考えられます。

○　家庭学習の意義や役割
○　家庭学習に関する約束事
○　学習計画の立て方
○　学習時間の目安
○　教科ごと、学年ごとの具体的学習内容
○　学習内容に応じた具体的学習方法
○　評価規準　　など

Q12　宿題の内容や量を教員間で調整する際、どのようなことに留意すればよいですか。

A12　宿題の内容や量については、各担任の裁量に任せるのではなく、学校の統一された方針のもと、教員間で適切に調整を図っていくことが大切です。そのためには、全教員で学力向上グランドデザイン等について共通理解を図り、定期的に評価・改善を行いながら、宿題を調整する必要があります。その際の留意点を、以下に示します。

＜小学校＞
○　調整役（学年主任、研修主任等）と調整の場（学年会、校内研修会、職員会議等）を明確にする。
○　同学年内の調整は日常的（単元ごと）に、学年間の調整は学期末に行う。
○　子どもの学力の実態に応じた効果的な宿題の出し方について、教員各自の工夫や悩みを交換し共有化を図る。　　など

＜中学校＞
○　掲示板等に宿題の内容や提出期日等を記入し、教員が宿題の状況を日常的に把握できるようにする。
○　子どもの宿題への取組状況や子どもや保護者の要望を踏まえて、定期的に学年会等でで協議する。　　など

Q13　宿題（予習、復習）を効果的に活用した授業とありますが、具体的に教えてください。

A13　学びの連続性を意識し、授業と家庭学習の学習サイクルを確立することが大切です。授業と家庭学習の双方を充実させ、相互の関連を深めることで、子どもに学ぶ意義、充実感、達成感、有能感を味わわせることができます。宿題を効果的に活用した授業として、次のような授業例が考えられます。

○　課題解決のために必要な資料を宿題として事前に読み、それをもとにして話し合う授業
○　宿題でレディネスを高め、主体的に既習事項を活用する授業
○　学習内容のまとめ・振り返りをもとに、自分に合った宿題（補充的な内容や発展的な内容）を選択する授業
○　「分からないこと」や「新たに追究したいこと」をもとに宿題を決める授業　　など

Q14　「調べ、考え、書く」を中心とした活用型の宿題とは、具体的にどのような宿題ですか。

A14　知識や技能を定着させるためのドリル的な宿題に加え、思考力、判断力、表現力等を育成するために、「調べ、考え、書く」を中心とした活用型の宿題を意図的に計画することが大切です。具体的には、次のような宿題が考えられます。

○　あるテーマについて調べたり、その結果や考えを表現したりする宿題
（実験や観察の結果等をレポートや新聞にまとめる。）

○　本や文章、資料を読み、自分の考えや意見、批評等を書く宿題
（新聞の社説や記事、コラム等のまとめや感想を書く。）

○　家族や友人、地域の人たちとのコミュニケーションやふれ合いを促すような宿題
（インタビューをしたり、発表の練習をしたりする。）

○　授業で学んだことを日常生活に結び付けて、身の回りの問題や課題を解決するような宿題
（自分で作った問題の解説書を書いたり、コンテスト等を目標に作品やプレゼンテーションを作成したりする。）　など

家庭学習を充実させるための学校の4つの取組

取組❶ 共通理解を図り指導します。

○　学年に応じた「家庭学習の手引き」などを作成するとともに、全教員が共通理解を図って指導していきます。

○　宿題の内容や量について、教員間で話し合い、調整していきます。

取組❷ 授業と家庭学習をつなげます。

○　学習内容に応じて、宿題（復習、予習）を効果的に活用した授業に努めていきます。

○　授業で学習したことを活用できる場面や方法を紹介していきます。

取組❸ 内容・方法を指導します。

○　学習内容や方法、時間、ノートの使い方などを示した手引きなどを継続的に活用し、学習の仕方を指導していきます。

○　「調べ、考え、書く」を中心とした活用型の宿題にも取り組ませていきます。

取組❹ 協力・連携体制を築きます。

○　地区の小学校同士や小中学校間で、家庭学習の内容や方法などについて共通理解を図り、取り組んでいきます。

○　お子さんや保護者の、家庭学習に関する悩みや要望を把握し、相談する機会を設けていきます。